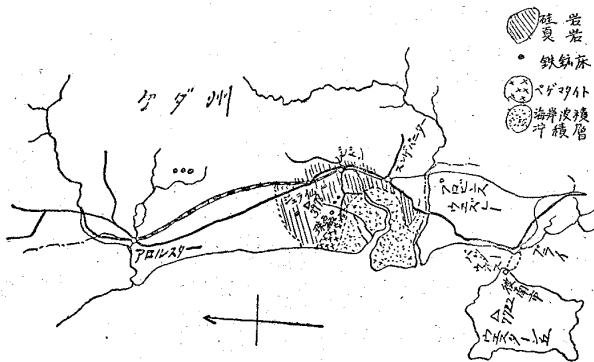


雜 錄

珠磊鐵山に就て 位置、馬來半島西海岸ケダ州、ジ
ユライ山南の麓丘にしてトツパーゴム園の北に接壤し海
抜 520 尺あり、其一半はスンゲーパターニ町方面に供給
する水道水源涵養林に屬し他半は官有保存林に屬す。

珠磊鐵山交通圖



地質及鑛床 ジユライ山は中世層中最も古き三疊紀の
硅岩並に頁岩を以て構成せられ、マルボー川の流域は現
世の海岸沈積物乃至沖積層より成り、其中間山麓に近く
中世層三疊紀の花崗岩屬の酸性岩迸發介在し其の大部分
は變質しペグマタイトとなる、ペグマタイトは白雲母及
電気石を多分に含有す、珠磊鑛區の岩盤は其南半にペグ
マタイト其北半に硅岩頁岩を有し鐵鑛床は兩者の接觸面

に大々的に胚胎せる接觸變質交代鑛
床にして丘麓より山腹丘頂に亘り十
數ヶ所に露頭し接觸鑛物としては丘
頂に無定形の柘榴石の鑛塊あり又ペ
グマタイトに喰込み交代せる證とし
て鐵鑛の一部に白雲母を散點す、左



に鑛床の想像截面圖を示す。

既成大鑛山は單なる交代鑛床乃至殘生鑛床なるに珠磊
鑛床の如きは半島に於て他に類例を見ず

鑛量 這般鐵鑛の埋藏量に就ては數ヶ月間の探鑛測量
の結果に俟たざれば之を計上し難きも鑛床の出來方と露
頭の廣表より類推し控へ目に極めて概略の推定を下すと
次の如し。

高さ 150m (頂點)
延長 700m (底邊)
幅員 20m (平均) } 山形即ち三角形として
磁鐵鑛 比重 5.0

$150 \times 700 \times 20 \times 1/2 \times 5 = 5,100,000$ 噸
510 萬噸

鑛質 最も優良なる磁鐵鑛にして赤鐵鑛を混じ、燐、
硫黃等の不純物は殆んど之を含有せず、馬來聯邦州地質
調査所に於てなしたる露頭部平均試料の分析試驗成績次
の如し。

100°C 乾鑛中%
SiO₂ 56 S 0.04 P 0.01 Mn 痕跡、
酸化鐵 96.71 Fe 67.70

同所長の附記に曰く「斯る優秀なる鐵鑛の所在御通報
の御配慮を得ば小生に取り如何計興味あることゝ存候」

權利 昭和 6 年 11 月 9 日ケダ州鑛山監督局へ栃木商
事株式會社の名に於て試掘出願をなし、同 12 月 15 日
向 21 ヶ年租借の優先權ある獨占試掘許可決定の通知を
受け同 12 月 30 日付許可證を下附せられたり。

國情 ケダ州は名目上王國にして非聯邦なるも事實上
英國の保護支配下に在り 英人顧問官は國王と同等以上の
權威を有し、諸官衙は王族を長官となすも實權は英人之
を掌握す、國王は目下退隱し王世嗣攝政す、州議會は英
人顧問 1 人馬來 4 人即ち國王攝政外王子 2 人を以て組織
せられ、議案は毎木曜同會の多數決により處理せらる手
續單純にして一等國民に對しては面談及び書面により簡
捷速進せられ何等の繁文様式を要せず、柔佛州其他の州
に比し雲泥の差あり、州會議所、土地局、鑛山監督局等
は首都マロルスターに在りて山林局、道路局等はスンゲ
イパターニに在り、公文書は土人に對しては馬來語を用
ひ他國人に對しては英語を使用す。

勞働 現今失業者夥しく各種の勞働者を 州内に求め得
べし、能率あがらざれども賃銀低廉にして現にゴム園勞
働者は男 1 日 40 仙以下女 1 日 30 仙以下なり、他州
の勞働者を輸入するを好まず、殊に日本の勞働者を拒絶
す失業救濟策に外ならず。

備考 1) 上部は露天探掘法によりて稼行し得べく、電
光體に石目ありて掘探容易なるも唯下部に至りて鑛床の
性質上地下作業となり探鑛費稍々高まること 2) 日本船
送が東海岸に比し海上一兩日の航程を犠牲とする 不利あ
り然れどもトレンガス州の如く毎年 4 月の季節風時に積
出休止等なかるべしと 3) 1 哩につき 1 萬圓内外のトラ
ック道を以て所要の目的を達成すべし(昭和 7 年 1 月 1

日星坡に於て鑛山技師工學士玉木 二五三九稿)

大阪工業試験所定量分析成績 (昭和 7 年 1 月 30 日)

SiO₂

SiO ₂	S	P	Mn	酸化鐵	Fe
2.61	0.02	0.02	—	97.06	67.88

SiO₂

八幡製鐵所定量分析成績 (昭和 7 年 2 月)

化合水	Mn	SiO ₂	S	P	Cu	Fe
1.10	0.16	2.20	0.027	0.005	0.002	68.24

埃太利製鋼業死滅の運命に頻す (Iron Age. January 21, 1932.)

漢堡 1 月 4 日發：—全埃太利の製鋼業は今や頻死の状態に在つて間もなく全工場の閉鎖を見るに至らん。此の窮狀を救はんが爲め豫め鐵道をしてレールの注文を發せしめんと努力したが、此の計畫は鐵道の財政難に依り全く失敗に終つた。埃太利に於ける鋼の需要は今や 2 年前の需要高の約 1 割に激減するの慘狀を呈し、併せて輸出貿易は不可能となつた。埃太利の製鋼工場は歐洲中最も古きもので又殆んど全部 高度鑛石より成るか、のエルツベルグ鐵山は第一世紀以來鐵生産の基礎を成し來つたものである (7. 2. 19 日 三宅)

ソヴィエト露西亞の 1932 年銑鋼生産計畫 (“Steel” January 18, 1932.)

ソヴィエト露西亞は其の冶金工業に於ける 1932 年の計畫として、銑鐵 9,000,000 噸、鋼塊 9,500,000 噸の生産を目標とする旨發表せるが此のプログラムは 5 箇年計畫が瓦解しつゝありと云ふ主張を反駁するものである。

1931 年の銑鐵生産目標は 8,300,000 噸で其の實産額は大約 4,700,000 噸であつた、故に 1932 年のプログラムは 1931 年のそれよりも 85% 多く昨年の實産額の約 2 倍に相當して居る。然しながら、元來 5 ヶ年計畫の下に於ける 1932 年の生産計畫は、12,000,000 噸を目標としたものであつた。

鋼塊に於ても亦同じで 1931 年の實産高は 其の計畫噸數の 8,800,000 噸に對し約 5,000,000 噸に過ぎなかつた。1932 年の目標は 9,500,000 噸で相當に増加して居るが然し 5 箇年計畫に於ける本来のプログラム 14,500,000 噸に比すれば大差あるを見る。

1931 年に於て其の計畫噸數の僅に約半數を生産しながら 1932 年の生産目標を銑鐵 9,000,000 噸鋼塊 9,500,000 噸となせる露西亞と、1931 年に於て僅に銑鐵 18,200,000 噸、鋼塊 25,500,000 噸を生産した後を受け 1932 年に於ては銑鐵 35,100,000 噸、鋼塊 48,400,000 噸即ち一躍 1929 年のレコードに殆んど立ち戻らんとする生産を目標とする合衆國とは正に好一對の取組みである。

然しながら露西亞は、1932 年の目標に到達するの機會

は 1931 年のプログラムに於けるよりも一層濃厚であることを揚言して居る。1931 年に於て一大障碍と目された輸送の不便は今や除去せられ、一方ウラルのマクニトゴルスク工場、西比利亞のクヅネットスク工場、ドネーバールのドネプロスタル工場等新設大工場の生産が 1932 年の生産高を増加せしむることは必定である。

ソヴィエト 1932 年のプログラム中には亦 1931 年の實産高 66,000,000 噸に對し 90,000,000 噸の産炭計畫 73,000 臺の自動車、1,300 臺の機關車 50,000 臺の貨車製造計畫をも含んで居る。

次表は最近數年間に於ける露西亞の銑鋼生産高並に計畫噸數を示す。

年次	銑鐵	鋼塊
1932 年プログラム	9,000,000	9,500,000
1931 年プログラム	8,300,000	8,800,000
1931 年實産高概算	4,700,000	5,000,000
1930 年實産高	4,933,000	5,550,000
1929	4,253,000	4,823,000
1928	3,322,000	4,206,000
1927	3,290,000	4,150,000

- 備考 1. 生産數字は“Steel”誌ロンドン支局の調に依る
 2. 鋼塊には 1932 年の計畫數字に含まざる少量の鋼鑄物を含む
 3. 1932 年及 1931 年の計畫數量の單位は佛噸其の他は英噸 (7. 2. 9 日 三宅)

印度の地方別、會社別、鐵鑛石、並銑鋼産額 (The Iron & Coal Trades Review, Jan. 1932)

印度地質調査所々長 L. Leigh Fermor 氏の報告に依れば、過去數年間印度鐵鑛石生産高は 1929 年迄逐年増進を示した。今や印度は英帝國內に於ては英本國に次ぐ第二位の鐵鑛石生産國である。勿論其の生産高は合衆國及佛蘭西の其れに比すれば、(合衆國 1929 年産額 70,000,000 噸以上佛蘭西約 50,000,000 噸) 九牛の一毛に過ぎざるも、其の資源の鑛量は合衆國の見積總額の 3/4 を多く下らず、結局印度は將來鐵鑛生産國中主要地位を占むるであらう可能性を多分に有するものである然しながら 1930 年に於ては世界的不景氣の影響を受け其の産額は前年より 578,930 噸を減じた (1929 年 2,428,555 噸 1930 年 1,849,625 噸)之れを地方別及び會社別に示せば次の如し。

地方別	生産噸數	會社別
Heonjhar 州	24,909	United Steel Corp. of Asia, Ltd.
Mayurbhanj 州	659,392	Tata Iron & Steel Company, Ltd.
Singhbhum 州		
(Noamundi 鑛山)	391,508	同上

Singhbhum州 241,404 Bengal Iron Company, Ltd.
(Pansira Ajita & Maclellan 鑛山)
Singhbhum州 447,786 Indian Iron & Steel Company,
(Guaの諸鑛山) Ltd.

殘額の 18,737 噸は其の他の會社の生産額である。ビルマの鐵鑛石産額は Burma Corporation, Ltd. の生産に係はるもので鉛製煉の媒溶劑として使用せらる。

在 Jamshedpur のタタ製鋼會社 1930 年の鐵鋼生産高の合計は 1929 年に比し若干の減少を示した、即ち銑鐵の生産高は 1929 年の 722,950 噸に對し 1930 年は 695,923 噸に減じて居るが鋼の産額(鋼軌條を含む)は 410,923 噸から 427,035 噸へ、又滿俺鐵は 3,630 噸から 4,576 噸へ増進した。

一方ベンゴール製鐵會社の銑鐵生産高は 1929 年の 196,080 噸から 1930 年は 103,929 噸に減じ其の銑鐵から造つた鋼材の産額は次の如き數字を示した。

	1930 年	1929 年
スリパー及チエヤー	3,153 噸	11,153 噸
パイプ其他の鑄物	34,833	32,445

尚印度鐵鋼會社の銑鐵生産高は 1929 年の 451,059 噸から 1930 年は 354,772 噸へ減じ又マイゾール製鐵會社の銑鐵産額は同じく 21,452 噸から 20,668 噸へ減じた、印度に於ける 1930 年の銑鐵總産額は 1929 年の 1,391,541 噸に對し 1,175,292 噸に減じたのである。

鐵鑛石の熔解を目的とせる印度中央諸州に於ける 1930 年中の採業土着爐總數は 1929 年の 174 基に對し 124 基を算した。前記の如く印度の銑鐵生産高は減少せるが、これに伴ひ其の輸出高も亦若干の減少を示すに至つた。即ち 1929 年の 453,881 噸から 1930 年には 502,629 噸に減じたのである、日本は依然として印度銑の主要消費者であるが然し其の對日輸出高の割合は 1929 年には總額の 7 割に達して居つたのが 1930 年には 4 割に減じたのである。一方英本國と合衆國との印度銑輸入高は、前年よりも著しく増加した。銑鐵 1 噸當りの輸出價格は 1929 年の 45.7 ルーピー(£ 3.41)から 1930 年には 41.2 ルーピー(£ 3.05)に低落した。

1924 年製鋼業保護條例(Act No. XIV of 1924.)に於ては印度人を使役する會社に對して全然又は大部分印度鑛石から生産された材料を以て英領印度内に於て製造された軌條及繼目板(鐵道省の承認せる寸法書に合致するもの)並鐵又は鋼の鐵道貨車(其の構成分子の大半が英領印度で製せられたもの)に補助金を與ふることになつて居つた。本條例は 1927 年の Act No. III に依つて廢止された爲め 1927 年 3 月 31 日以後補助金は下附されないことになつた。然しながら斯業は各種鋼材の輸入品に對する關稅に依つて、或る程度までの保護を受けて居る

のである。(7. 2. 10 日 三宅生)

瓦斯用鋼管の自給自足近し わが國における瓦斯管の需給は細物および太物こそ外品の輸入にまつてゐるが、中間物は年 7 萬を自給の域に達してゐる、たゞその價格は歐洲に強固なるシンヂケートあるため從來これに追隨のほかなかつたが、金再禁止後は外品 1 吋物 15 錢(1 フィート建)近くまで奔騰を示したため、内地品の同 12 錢 7 厘に比し全然輸入の餘地なきに至り、内地工業の基礎はこれによりやうやく確保されたものと見られ、今後細物および太物の自給計畫にすまんとしつゝあるのが注目される。(中商 2/12)

米國輸出鐵屑統制 8 日商工省着、在シカゴ小川貿易通信員よりの報告によれば 8 日より 3 日間ワシントンにて開催の全米鐵屑協會において輸出鐵屑統制のため全米輸出組合設立を協議するはずであると、米國の屑鐵輸出及び價格は次の通り。

輸出額(單位噸)	1929 年	1930 年	1931 年
	557,000	358,000	135,000
市價(噸當り、單位ドル)	最高		最低
	1929 年	17.58	14.08
	1930 年	15.00	11.25
	1931 年	11.33	8.50

近來甚だしく不振を極めてゐる折柄組合設立と同時に復興金融會社から輸出助成資金を借入れることになつてゐるので當業者から相當期待されてゐるが、一方米國屑鐵總輸出額の約 4 割 8 分を輸入する我國としては其の組合成立見越しによる値上りと賣控へにて二重の苦痛を受け、既に屑鐵の内地河岸着値段は再禁止前の 22—3 圓から現在は 32.3 圓に暴騰し、然も品不足にて手當に困難を來たし製鋼原價の遞昇を懸念されてゐる(東朝 9/3)

硫安の販賣協定(限産に先立ち) 硫安生産の搖籃期にあつた本邦窒素工業は、從來外國硫安の輸入を仰いで供給不足に補ひをつけてゐたが、最近本工業の發展は劃期的で昨年度内地硫安の生産高 38 萬噸であつたものが本年は次のごとく 49 萬噸の生産を豫想さるゝ情勢である。(單位噸)

内地會社	6年實産	7年豫想	内地會社	6年實産	7年豫想
日本窒素	113,942	110,000	各地瓦斯	9,866	11,000
昭和肥料	72,262	144,000	製鐵所	11,036	11,000
大日本肥	47,752	47,000	三井鑛山	2,502	3,200
三池窒素	5,594	30,000	釜石鑛山	1,652	1,800
クロー式	4,890	5,000	輪西製鐵	1,564	1,500
住友肥料	28,942	30,000	(副成)	26,620	28,500
電氣化學	73,338	90,000	硫安計	380,620	439,600
大同肥料	5,777	5,000	内地		
北越水電	1,503	100	硫安計		
(合成硫安計)	354,000	461,100			

これに加へて 朝鮮の生産また次の如き増産を期待される。(單位同上)

朝鮮會社	朝鮮窒素	三菱製鐵	朝鮮硫安計
6年實産	218,871	2,425	221,296
7年豫想	285,000	2,400	287,400

すなはち内、鮮を通じて6年度生産60萬1,000噸より進んで本年は77萬7,000噸、さらに明年は95萬7,000噸の生産を豫想するものである、しかも本年としては現在ストック35萬噸、外國硫安ストック9萬噸を擁しこれに今後の輸入3萬噸を加算すれば、總供給高は150萬噸に上るが、他方需要は昨年72萬噸より推し本年約80萬噸と見るべく、差引き35萬噸はこれを明年に持越すほかない、かゝる供給過剰の大勢に照し、内地硫安會社より成る窒素協會では、生産制限の實施に先立ち目下販賣價格および區域の協定案を練つゝあり、既存の石灰窒素、硬化油、カーバイト等の販賣制度を参考に會社案、組合案、委託販賣案等の可否を考究してゐる、しかして販賣協定の成立に次いででは過剰硫安の輸出または棚上に手をつけるが、この間全購聯關係の一部會社を除いては協定に異存の向なく、加盟會社も少數のことゝて存外急速に協定實現の日を迎ふべき形勢である(中商9/3)

内外最近刊誌参考記事目次

The Foundry, Jan. 1, 1932.

- The Iron Foundry of the Future. W. H. Chaffe. pp. 39-40.
 Steel Casting Lead in Exacting Service Requirements. Raymond L. Collier. pp. 41-43.
 Several Methods Available for Cupola Drop Disposal. Norman F. Hindle. pp. 44-45.
 Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 46-48.

The Foundry, Jan. 15, 1932.

- Molding Non-ferrous Castings for Household Machines. Edwin Bremer. pp. 14-18.
 Rate Setting Needs Consideration. A. E. Grover. p. 18.
 Builds Patterns for Worm and Gear Wheel. J. G. Fitzpatrick. pp. 19-21.
 Clean Iron and Steel with Alloying Agents. R. C. Good. pp. 22-24.
 Make Early Steel History in Milwaukee. Charles Vickers. pp. 25-28.
 Sea Coal Affects Permeability of Molding Sands. Walter M. Saunders, Sr. and Walter M. Saunders, Jr. pp. 29-30.
 Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 31-33.

The Foundry, Feb. 1, 1932.

- Causes and Prevention of Pinholes in Aluminium Castings. D. Hanson and J. G. Slater. pp. 31-34.
 Melts Gray and Malleable Iron in the Electric Furnace. J. C. Bennett and J. H. Vogel. pp. 35-39.
 Basic Time Standards Can Be Used in Estimat-

ing Coasts. Richard H. Hansen and Harold T. Hansen. pp. 41-43.

New Type of Inclusion Depends on Manganese-Silicon Ratio. E. J. Cook. pp. 44-46.

Prevent Losses with Proper Gates and Risers. Pat Dwyer. pp. 47-49.

The Metal Industry (London), Dec. 25, 1931.

- Pulverised Fuel: Its Application to the Metallurgical Industries. R. Jackson. pp. 605-608.
 Nickel and Nickel Alloys in Marine Engineering. J. McNeil. p. 609.
 A New "Jarr" Rollover Machine. p. 610.
 Discussion on "The Casting of Tough Pitch Copper. pp. 611-612.
 Influence of Small Amounts of Impurities on the Properties of Refined Zinc. O. Bauer. p. 613.

The Metal Industry (London), Jan. 1, 1932.

- Some Practical Notes on Solders and Soldering Fluxes. A. Eyles. pp. 3-6.
 Slush Casting of Aluminium Utensil Spouts. Robert J. Anderson. pp. 7-10.
 Gold and Silver as Money Metal. T. A. Rickard. pp. 11-13.

The Metal Industry (London) Jan. 8, 1932.

- The Corrosion of Aluminium Alloys. Henry Gibb. pp. 27-30.
 Deoxidisers and Fluxes. G. L. Bailey. pp. 31-34.
 The Control of Electrodepositing Solutions. No. X.—The Acid Copper Bath. Samuel Field. pp. 39-40.
 The Structure of Electrodeposited Metals, III. Leslie B. Hunt. pp. 40-42.

The Metal Industry (New York), Jan., 1932.

- The Use of Non-Ferrous Metals in the Shipping Industry. Francis A. Westbrook. pp. 1-3.
 The Metal Producing Industries—A symposium on Their Record in 1931 and Prospects for 1932. pp. 4-11.
 The Metal Consuming Industries. H. M. St. John. p. 12.
 The Non-Ferrous Rolling Mills. William J. Pettis. pp. 13-14.
 Jewelry Making. C. M. Hoke. pp. 15-16.
 Secondary Metals. Thomas A. Wright. pp. 16-18.
 Contributions of 1931 in the Field of Electroplating. A. K. Graham. pp. 18-19.
 Problems in Electroplating. Oliver J. Sizelove. p. 19.

Zeitschrift für Metallkunde, Jan. 1932.

- Erfahrungen mit Stehbolzen- und Feuerbuchskupfer in England und Deutschland. R. Kühnel. s. 1-7.
 Ausländische Erfahrungen im Bau von Strassenbahn- und Eisenbahnwagen aus Aluminium und seiner Legierungen. P. M. Haenni. s. 12-18.
 Der Einfluss von dritten Metallen auf die Konstitution der Messinglegierungen, III. Der Einfluss von Zinn. O. Bauer und M. Hansen. s. 19-22.
 Ueber die Entzinkung des Messings. G. Masing. s. 23-25.
 Kostenaufstellung bei Leichtmetallguss. W. Hofmann. s. 25.
 Untersuchung der Wärmeausdehnung von Aluminium-Leichtlegierungen. H. Sieglerschmidt. s. 26-30.

Heat Treating and Forging, Jan. 1932.

- Heating Steel for Forging. N. L. Deuble. pp. 19-23.
- Metallurgy and the Motor Car Industry. Robert Hadfield. pp. 24-27.
- Nitrided Steels and their Properties. H. A. De Fries. pp. 28-31.
- Future Fields for Alloy Steels. J. M. Schlendorf. pp. 31-32.
- Time Factor in Tempering Dies. Bernard Thomas. pp. 35-38.
- Recent Developments in Gas Burners. W. Trinks. pp. 45-47.
- Artificial Furnace Atmosphere Created from Ammonia. John E. Haig. pp. 48-50.
- Modernization by Electric Heating. C. L. Ipsen and S. Martin. pp. 51-52.
- Tool Steel Gear and Pinion Company. J. B. Nealey. pp. 53-54.
- Metallography and its place in Industry. J. R. Miller. pp. 57-60. (譯)

Steel, Jan. 11, 1932.

- Pulverized Coal Firing Cuts Costs in Malleable Foundry. Frank S. O'Neil. p. 23-25.

Steel, Jan. 25, 1932.

- Safety of Personal on Important Factor in Heat Treating. p. 23-25.
- Large Uses of Steel in Small Ways. 209th Article. p. 30.

Steel, Feb. 1, 1932.

- Lubrication of Roll Neck Bearings Requires Special Attention. Ralph C. Walter. p. 31-33.

Steel, Feb. 8, 1932.

- Continuous Manufacture of Welded Conduit. J. B. Nealey. p. 31-33.
- Testing Machine Will Exert 4,000,000-Pound Pressure. p. 34-35.
- Rivet Manufacture Keeps Step with Progress in Fabricating Methods. Pierre Champion. p. 35.
- New Product Broadens Field for Malleable Casting. Enrique Touceda. p. 36.
- Large Uses of Steel in Small ways. 210th Article. p. 40.

The Iron Age, Jan. 7, 1932.

- Cultivate Markets or Lose them. L. J. Lewery. p. 6-9.
- Industry Experiences a Calamitous Year. C. E. Wright. p. 13-21.
- Confidence in Stability of Money is one Great Need. Dr. Lewis H. Haney. p. 22-24.
- Alloy Steels and Alloys in 1931. W. J. Priestley. p. 30-32.
- 1931 Set Pace in Machine Tool Design. William K. Stamets. p. 44.
- Precision Grinding in 1931 and 1932. R. E. W. Harrison. p. 48-49.
- Modernizing in Stamping Trade Goes Apace. E. V. Crane. p. 74-75.
- Welding Made Amazing Progress in 1931. James W. Owens. p. 92-93.

The Iron Age, Jan. 14, 1932.

- President Use of Welding in the Pressure Vessel Field. William Spraragen. p. 161-165.
- Rotating the Force in the Drafting Room. H. M. Friend. p. 166-167.
- Cold Rolling Strips by the Steckel Process. p. 168-171.
- Selecting Alloy Steels for Locomotive Frames. W. A. Newman & C. F. Pascoe. p. 172-175.

- Anthracite Gas for Heat Treating at Lower Cost. p. 176-178.

The Iron Age, Jan. 21, 1932.

- Several Types of Gas Furnaces Used in Rivet and Nut Plant. F. J. Evans. p. 222-225.
- Electric Equipment for Roller-Bearing Cranes. James A. Jackson. p. 226-229.
- Keeping White Rust from Zinc-Coated Products. Wallace G. Imhoff. p. 232-235.

The Iron Age, Jan. 28, 1932.

- Machining "Wasp" and "Hornet" Crank Shafts. H. R. Simonds. p. 280-283.
- Welding and Heat Treating Alloy Steel Locomotive Frames. W. A. Newman & C. F. Pascoe. p. 284-285.
- Combining Die Castings with Stampings. L. H. Morin. p. 286-287.

The Iron Age, Feb. 4, 1932.

- Accurate Machining, as Typified in Small Arms Manufacture. Herbert R. Simonds. p. 324-327.
- Electrically Heated Galvanizing Furnace. R. M. Cherry. p. 334-338.
- Protecting Weak Spots in Open-Hearth Furnaces. C. W. Veach. p. 339.
- Designing and Testing Welds in High-Pressure Vessels. William Spraragen. p. 340-343.
- Shortening the Nitriding Process. John J. Egan. p. 344-346.

Blast Furnace and Steel Plant, Jan. 1932.

- Open-Hearth Metallurgy in 1931. C. H. Herty. p. 49-50.
- Modern Trends in Open-Hearth Operations. L. R. Reinartz. p. 51-53.
- Blast Furnace Practice in 1931. George B. Garrett. p. 54-55.
- Electrical Developments in 1931. A. F. Kenyon. p. 56-57.
- Development of Refractories in 1931. O. H. F. Builder. p. 59-60.
- Why Sheets are Thicker at Center. W. H. Melaney. p. 61-63.
- The By-Product Coke and Gas Industry for the Year 1931. C. J. Ramsburg. p. 64-65.
- Means to Increase Temperatures in the Open-Hearth Furnace. A. J. Boynton. p. 66-70.
- Developments in Electrical Equipment for Steel Mills in 1931. Harry A. Winne. p. 71-74.
- Review of Iron and Steel Literature for 1931. E. H. McClelland. p. 75-79.
- Are High Steam Pressures More Economical in Blast Furnace Plants? C. B. Thorne. p. 80-82.

Iron and Steel Industry, Jan. 1932.

- Efficiency on the Jobbing-Shop Floor. Frank Whitehouse. p. 159-160.
- Making a Cast Iron Pan. A. Sutcliffe. p. 161-162.
- The Failure of Steel Components by Fatigue. H. W. Keeble. p. 165-170.
- Electric Hardening of High Speed Steel. A. G. Roblette. p. 171-177.

Foundry Trade Journal, Jan. 7, 1932.

- Deoxidisers and Flexes. G. L. Bailey. p. 6.
- An Engineer's View of the Foundry. Henry Gardner. p. 7-11.

Foundry Trade Journal, Jan. 14, 1932.

- Foundry Research in 1931. Harold Hartley. p. 21-23.
- Recent Developments in Railway Foundry Practice. T. Henry Turner. p. 27-29.

- The Italian Steel Foundry Industry in 1931. Guido Vanzetti. p. 29.
Recent Developments in Aluminium Founding. D. Hanson. p. 31-32.
Foundry Trade Journal, Jan. 21, 1932.
Moulding and Casting a 32-Ton Foundation Block. G. E. Morgan. p. 55-56.
Deoxidisers and Fluxes. G. L. Bailey. p. 57-60.
Stahl und Eisen, 21. Jan. 1932.
Ueber die Tätigkeit des Vereins deutscher Eisenhüttenleute im Jahre 1931. s. 53-68.
Der Einfluss des Beschäftigungsgrades auf die Energie- und Stoffwirtschaft der Hüttenwerksbetriebe. Berthold v. Sothen. s. 68-70.
Stahl und Eisen, 28. Jan. 1932.
Die Betriebsorganisation in einem Walzwerk unter besonderer Berücksichtigung der Arbeitsvorbereitung. Kurt Wiecke. s. 77-84.
Kreismesser-Saumocheren für Einzel- und Paketbleche. Louis Frielinghaus. s. 84-86.
Stahl und Eisen, 4. Feb. 1932.
Verwendung von Hochofenschlacke zur Herstellung von Pflastersteinen. Max Paschke und Dietrich Fastja. s. 109-116.
Groszeisenwirtschaft unter Krisendruck. W. Steinberg. s. 116-119.
Die Giesserei, 22. Jan. 1932.
Versuche über Herstellung von Temperrohgzug im Brackelsbergofen unter Verwendung von HK-Sonderroheisen. M. Paschke und K. Lange. s. 23-27.
Die Kosten einer Umarbeitung von Aluminium-, Messing-, Rotguss- und Bronzeabfällen zu neuwertigem Blockmetall. H. Reininger. s. 28-30.
Korrosion und Metallschutz, Jan. 1932.
Die Bedeutung der Wasserstoffaufnahme des Eisens für den Korrosionsvorgang. E. Liebreich. s. 1-4.
Das Verhalten von Aluminium und Aluminiumlegierungen in Wasserstoffsperoxydlösungen. W. Wiederholt. s. 4-15.
Kruppsche Monatshefte, Dez. 1931.
Zur Auswertung des Biegeversuchs bei Guszeisen. Gustav Meyersberg. s. 301-330.
Ueber nichtrostende und hitzebeständige Chrom-Guszeisenlegierungen. E. Houdremont und R. Wasmuht. s. 331-337.
Metals & Alloys, Jan. 1932.
Refractories in Metallurgical Operations. Clyde E. Williams. p. 3-11.
Silicon Carbide and Its Application in Metallurgy. H. R. Houchins & C. McMullen. p. 12-14.
The Aluminium-Silicate Refractories. G. A. Bole. p. 15-21.
Bonding Magnesite Linings. Louis Jordan. p. 22-24.
Metallurgia, Dec. 1931.
Arc-Welding Progress that Tends to Eliminate the Human Factor. p. 35-36.
Heat-treating and Forging Some Light Alloys. W. C. Devereux. p. 45-50.
The New Alloys and Machine-tool Design. Part VI. Francis W. Shaw. p. 59-62.
北海道石炭鑛業會々報 第209號昭和7年1月25日
北海道に於ける埋藏炭量に就て 松本 彬
選炭に就て (3) 花江 良太郎
- 機械探炭法 (1) 日野 神兒
金屬 第2卷 第2號 昭和7年2月號
車輛用鋼材に就て 朝倉 希一
輕金屬の機械的及電氣的性能 (2) 高橋 本枝
金屬の結晶組織 (5) 清水 要藏
工業化學雜誌 第35編 第2冊 昭和7年2月5日
酸化銅アムモニア溶液に關する研究
(第一報) 酸化銅アムモニアの酸化接觸作用
(第二報) 酸化銅アムモニアの觸媒的酸化作用(續き)
(第三報) 酸化銅アムモニア溶液に依る纖維素試料の評價 石井 直治郎
電氣製鋼 第8卷 第2號 昭和7年2月15日
鐵鑄の研究 (其一) 遠藤 彦造
硝酸、鹽酸、硫酸による鼠鑄鐵の腐蝕に及ぼすニッケル及び銅の影響 山本 洋一
純金屬マンガンの製法 金友 壽聲
九州鑛山學會誌 第3卷 第1號 昭和7年1月10日
支那炭田概觀 山根 新次
三井田川鑛業所第二坑に於ける通風實驗報告
小田 二三男
本邦産主要石炭の發熱量並に工業分析結果續報 (其二)
中村 小四郎
鑄造 第4卷 第2號 昭和7年2月
鑄物試驗所設置の必要 百々 初男
鑄棒の標準化 石川 俊貞
アルミニウム鑄物中に含まるゝ硬い物質の研究
石川 俊貞
鑄造工場に於ける必要なる智識 森 重侯
第11回鑄物研究會記事
燃料協會誌 第113號 第11年 2月號
製鐵所洞岡骸炭工場の作業狀態に就て 岡村 琢三
陶磁器用燃料 熊澤 治郎吉
加熱に依る石炭の收縮膨脹を測定する新裝置
下村 明
石炭撒布競技會記事 竹村 誠也
金屬の研究 第9卷 第2號 昭和7年2月
二、三のコバルト合金に就て 橋本 宇一
灰銑鑄物の殘留歪に就て 的場幸雄、岸本 浩
銅—錫系固溶體の共析變態に就いて
今井 弘、萩谷 正巳
銲接協會誌 第2卷 第3號 昭和7年2月
銲接と銲接接合との比較實驗 内藤多伸、鶴田 明
電弧銲接に及ぼす瓦斯の影響 井口庄之助、岡田 實
偏光試験に依る鋼銲銲接部の強さの研究

佐々木新太郎外 2 名

久保正氣

機械學會誌 第 35 卷 第 178 號 昭和 7 年 2 月
 新らしき靜的釣合試驗裝置 三上 新九郎
 八幡の製鐵所に於て使用中の國產日立ヤーロー式汽罐
 の成績に就て 葛原 義雄
 海軍機關用材料に就て 牛丸 福作

理化學研究所彙報 第 11 輯 第 3 號 昭和 7 年 3 月
 アルミニウム合金の磨耗及腐蝕に及ぼす酸化皮膜の效
 果 瀨藤 象二、宮田 聰
 工業化學雜誌 第 35 編 第 3 冊 昭和 7 年 3 月 5 日
 本邦に於ける石灰燒成爐の作業に就て

日本鑛業會誌 Vol. 48 No. 562 昭和 7 年 2 月
 マンガン鑛の浮游選鑛 山口 吉郎
 八幡製鐵所に於ける石炭の浮游選炭 伊能 泰治
 牛尾 廣惠

野田稻吉外 2 名
 珪酸石灰鹽の乾式熱合成に關する研究
 永井 彰一郎、秋山 圭一
 北光 第 32 號 昭和 7 年 3 月 10 日 (秋田鑛專)
 鑄鐵配合中の Cr に就て 益田義三 p. 34

機械學會誌 第 35 卷 第 179 號 昭和 7 年 3 月
 粘性金屬の強度に對する鍛鍊の效果及粘性との關係

北海道石炭鑛業會々報 第 210 號 昭和 7 年 1 月 25 日
 選炭に就て (4) 花江 良太郎
 機械採炭法 (2) 日野 神兒

粘性變形に關する考察 清水 篤磨
 ロール内の溫度分布並に其熱應力に就て 淺川 勇吉
 引張を受くる横に單列及複列の孔ある板に生ずる内力
 の分布 山ノ内 弘
 水車吸水管の模型試驗に就て 宮城 音五郎
 爐床下の熱流に就て 山縣 清

海外經濟事情 第 5 年 第 3 號 昭和 7 年 1 月 25 日
 ドイツ石炭鑛業狀況 (1930-31 年) p. 30
 同 第 5 年 第 6 號 昭和 7 年 2 月 15 日
 獨逸アスファルト及グラフト礦石產出及輸出入狀況
 p. 50

大日本窯業協會雜誌 Vol. 40 No. 471 昭和 7 年 3 月
 酸化焰と還元焰による兩種の燒成に就いて

同 第 5 年 第 7 號 昭和 7 年 2 月 22 日
 上海地方の窯業狀況 p. 1
 獨逸經濟狀況 (1931) p. 32

熊澤 治郎吉

同 第 5 年 第 8 號 昭和 7 年 2 月 29 日
 獨逸の新緊急令大要 p. 17
 ソヴィエト聯邦國民經濟豫定計畫(1932年) p. 20
 廣西省錫鑛開放に關する規定 p. 27
 シンガポール石炭市況 (昭和 6 年 11 月) p. 38
 マグネシウム・デベロップメント社の創立 p. 40

金屬 第 2 卷 第 3 號 昭和 7 年 3 月
 金屬の歴史 戸波 親平
 鑄鋼製磁氣繼鐵 野上 熊二
 タングステン・カーバイドに就て 榛葉 久吉
 電氣銲接 窪田 格太郎

同 第 5 年 第 9 號 昭和 7 年 3 月 7 日
 世界石油生産高とアルゼンチン國の石油生産業 p. 18
 カリフォルニア州諸石油會社のガソリン販賣成績
 (1931) p. 33
 メキシコ國石油業近況 p. 47

石炭時報 第 7 卷 第 3 號 昭和 7 年 3 月 5 日
 掘進鑛區に於ける問題 鹽田 北環
 骸炭用炭の性質に就て 新村 唯治

同 第 5 年 第 10 號 昭和 7 年 3 月 14 日
 英、米、獨、佛四國經濟界概況(1932年1月)通商局 p. 1
 獨逸のセメント工業狀況 在伯林商務官 p. 22
 米國外國貿易概況 (1931年) 在新育商務官 p. 20

工業雜誌 第 68 卷 第 855 號 昭和 7 年 3 月
 JES. フランヂ規格案に就て 大月 武一
 安全剃刀用ブレードの性質と其試驗方法 柴田 晴彦

昭和 7 年 1 月中(八幡製鐵所)銑鋼生産高表 (單位噸)

銑		鐵		鋼		塊		鋼		材	
當月 生産高	前月比較	1月以降 累計	當月 生産高	前月比較	1月以降 累計	當月 生産高	前月比較	當月 生産高	前月比較	1月以降 累計	1月以降 累計
54,332	+1,048	54,332	68,364	-10,727	68,364	69,895	+6,154	69,895		69,895	

昭和 6 年 12 月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

	12月中	前月	前年同月	1月以降累計	
				昭和6年	昭和5年
金 gr	999,578	1,003,821	1,053,580	12,200,372	11,331,445
銀 gr	13,898,943	14,278,598	14,814,955	667,315,372	159,483,287
銅 kg	6,192,407	6,188,930	6,700,043	74,814,015	77,911,533
硫 黃 kg	4,916	4,650	4,630	55,235	56,531
石 炭 t	2,250,239	2,135,069	2,408,917	25,795,410	29,374,724
石油(原油) 100 l	222,822	221,839	268,262	2,996,014	3,028,083
セメント t	288,626	298,679	310,405	3,614,914	3,743,430
過磷酸石灰 t	84,789	85,958	—	898,337	—
硫 安 t	37,994	36,432	20,383	374,468	262,502